

赤ちゃんだって絵本が大好きー。今月末で定年退職する鳴門教育大学教授で同大付属児童図書室長の佐々木宏子さんが、乳幼児の母親へのインタビューをもとに、赤ちゃんにとっての絵本の役割を分析した育児書「絵本は赤ちゃんから」

を出版した。「絵本は、意味の世界へ入る前に、大人との間でコミュニケーションを深めるための重要な道具。一度しかない赤ちゃん時代が、どれほど豊かな時間か気付かせてくれるでしょう」と話している。

鳴門教育大・佐々木教授が出版

やんに「桃太郎」を語り聞かせると、赤ちゃんも大人の語りに合わせて、まるで話をしているように口を動かす。また、オノマトペ（擬声語、擬音語、擬態語など）が多く含まれている絵本にも強い関心を示し、全身で笑うこともある。

赤ちゃんへの絵本の読み聞かせは、双方のリズムの中で決まっていく。だから、佐々木さんは『読み聞かせ』ではなく『読み合い』

A black and white photograph of Sasaki Koshi, an elderly woman with short hair, wearing a patterned kimono over a dark vest. She is standing in front of a bookshelf packed with books, many of which have "赤ちゃん絵本" (Picture Books for Infants) printed on their spines. She is gesturing with her right hand towards the camera.

繰り返されると、その通りに安心感を抱く」と説明した上で、「親ができる上での選択や繰り返しには何か理由があると心得て、丁寧に応じてやるしかなりい」と、おおらかな対応を求めている。

親子で経験する、味はそ う、佐々木 確認する。

ら幼児
きにも
間に、
ちゃん
な絵本
い、そ
に豊か
時間で
る」とい
木さんは
れほど重
はないの
心地よい

「言葉のリテラシー」は、言葉の本質を理解するための基礎知識です。この言葉のリテラシーが、読書や文章作成において重要な役割を果すのです。

時瞬うつうい時
赤のムハユの氣
換ばしばし
特しき限けだけ
はいは九
意ののれる
識ながかを
合のんなん
ようのう
時瞬うつうい時
赤のムハユの氣
換ばしばし
特しき限けだけ
はいは九
意ののれる
識ながかを
合のんなん
ようのう

や音韻を
気持ちを
—モアあ
したりす
—どんな
ようか。
定の効果
ません。
にあるの
る。

通して、伝え合つ
ふれる感
ふることが
に素晴らしい
赤ちゃん
を期待し
でも、効
です」と

お互いに情を交わす
たり、
「から」
一
話して
果は無
絵本に
てはい

読み合ひ さすな深める

親子で経験共有する時間

るいは幸世の感情
に包まれたかを、
じっくりと味わう

同書の中で佐々木さんは「子どもは絵本を読むことを通じて多くの新しい言葉や言い回しを覚え、人間の心を読むことを知る。新たな感情の存在に気付く」とある。しかし、それらは結果として付随するものだと言う。大切なのは一冊の本を読み合つことで、大人と赤ちゃんの間でどのようないいと驚きが生まれ、悲しみあるいは幸せの感情に包まれたかを、じっくりと味わうこと。赤ちゃんから幼児へという瞬間に似た短い時間に、大人は、赤ちゃんとどのような絵本を読み合いい、それがどんなに豊かで不思議な時間であったかを確認することによる意味がある。

ムや音韻を通して、お互いの気持ちを伝え合ったり、ユーモアあふれる感情を交換したりすることができれば、どんなに素晴らしいでしょうか。赤ちゃん絵本に特定の効果を期待してほいけません。でも、効果は無限にあるのです」と話している。